ならまち リハビリテーション病院

名　　称	医療法人せいわ会 ならまちリハビリテーション病院
理 事 長	福澤 正洋
病 院 長	平林 伸治
開　　設	2020年8月1日
許可病床数	108床(回復期リハビリテーション病棟 36床×3病棟)
診療科目	内科/リハビリテーション科
職 員 数	202名(2025年4月現在)

アクセス

車でお越しの方(大阪方面より)

- 第二阪奈道路 宝来ICより約13分

電車でお越しの方

- JR「奈良駅」下車 東側より徒歩6分
- 近鉄「奈良駅」下車 6番出口より徒歩10分

住所:〒630-8357 奈良県奈良市杉ヶ町57番1

TEL:0742-20-3700(代表) / FAX:0742-20-7800 / https://www.naramachi-rh.jp/

ならまちリハビリテーション病院 | 検 索

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構
認定第 JC2688 号

https://www.naramachi-rh.jp/

Instagram

ならまち リハビリテーション病院

「患者さま」「ご家族」「地域」「医療・介護」の4つの想いをひとつに

理　念　自分らしさをとりもどす、精一杯のお手伝い

基本方針　患者さまの立場から発想し、
いつも謙虚な気持ちで個と組織を改善します。

最先端の知識と技術を習得し、安全・安心で質の高い
患者さま中心のチーム医療を実践します。

笑顔でのあいさつを基本とし、
温かみと思いやりのある療養環境・職場環境をつくります。

理事長 ご挨拶

ならまちリハビリテーション病院（回復期リハビリテーション病棟108床）は、奈良市の中心市街地の南東部に位置する「ならまち」と呼ばれる歴史的街並みを有する地域に令和2年8月に開設されました。
脳血管系、運動器リハビリテーションを主幹にし、在宅復帰、在宅サービスとして訪問リハビリテーションを実施しています。わが国は世界有数の長寿国であり、2025年には人類が経験したことのない超高齢化社会になります。一方、一億総活躍社会を目指していますが、そのためには「健康長寿」である必要があります。しかしながら、疾病や外傷から起こってくる障害を持ちつつ生活される方々も多くいらっしゃいます。
リハビリテーション医療は正にこの障害のある人々を身体的，心理的，社会的に，各人それぞれの最大限度にまで回復させることを目指しています。当院では患者さまが“自分らしさ”や“日常”を取り戻すために、医師とともに看護師・介護士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・社会福祉士・薬剤師・栄養士等の専門スタッフがチームとなり、安全・安心で質の高い治療に取り組んでいます。
また、当院は同一病棟でリハビリが出来るように、各階にリハビリスペースを設け、チーム全員が患者情報を共有できるようにしております。なかでも、嚥下障害に対しては、X線装置による嚥下機能の診断を行って、言語聴覚士が摂食訓練を行っています。「患者さま」「ご家族」「地域」「医療・介護」の4つの想いをひとつにし、回復期リハビリテーション病院として地域で信頼され、必要とされる病院となるよう努めてまいりますので宜しくお願い申し上げます。

理事長　福澤 正洋

病院長 ご挨拶

ならまちリハビリテーション病院は2020年回復期リハビリテーション病院として108床で開院いたしました。有田憲生初代院長は患者さまへ毎日のリハビリテーション実施による入院治療の結果として機能向上が大きく出るように尽力されました。2022年10月より平林伸治が2代目として着任いたしました。今までと同じく患者さま一人一人に合わせたリハビリテーション医療を実践し、地域の病院や施設と共に地域連携を進めてまいります。
当院は急性期病院から重症な患者さまが転院されてもリハビリテーションを早期に実践できる広さや設備を有しております。廊下幅は広く病室を出てすぐに練習を行うことができ、お食事もリハビリテーションの一環としテーブルや広さ、明るさを工夫した食堂を設計しております。トイレについても右片麻痺用、左片麻痺用を配置しており、どんな障害にも対応した練習が行えます。また6階のリハビリテーション室は広く安全なスペースであり、各種ロボットや練習用器械を備えリハビリテーションに特化した病院設計としております。
さらに患者さまの退院後、住み慣れた地域やご自宅に戻り生活し易くなるように入院中から生活環境に合わせた練習や家屋調整のアドバイスを行っており、社会参加が可能になるように努めております。訪問リハビリテーションチームも有しており、実際の生活の援助や介護方法のご指導させていただいております。
せいわ会の理念である「自分らしさをとりもどす、精一杯のお手伝い」を目標に病院スタッフ一同努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

病院長　平林 伸治

REHABILITATION CENTER

リハビリテーションセンター

生活を見据えたリハビリテーション

具体的な目標を設定し、科学的根拠に基づいたリハビリテーションを毎日提供します。
退院後の生活を見据え、実際の動作・環境で練習を行い、リハビリと実生活を繋げます。

患者さまへの5つの約束

{1}
1日最大限の活動量を実践し、
効率の良いリハビリテーションを
提供します。

{2}
課題難易度に応じた
リハビリテーションプログラムを
提供します。

{3}
トイレ動作および
経口摂取の早期獲得を目指します。
早期に装具を作製し、
積極的な運動療法を行います。

{4}
退院後の生活を具体的にイメージし、
実際の動作・環境で評価・練習を行います。

{5}
自主練習や具体的な介助方法指導を行い、
最小限の住宅改修や最適な福祉用具の提案を行います。

最適なリハビリを提供

専門医の指示のもと、病気や症状に応じた
適切なリハビリテーションを行います。

対象となる方	
脳卒中になられた方	足の切断をされた方
骨折された方	飲み込みに問題のある方
手術や治療で体力の衰えがある方	

最新機器の導入

最新型のリハビリテーション機器を導入し、効果的なリハビリテーションを行っています。

ADLシミュレーター
（浴槽）

ADLシミュレーター
（トイレ）

LDKでの調理練習

体重免荷装置での
歩行練習

言語練習
（高次脳機能練習）

言語練習
（嚥下練習）

訪問リハビリテーション

病院付属という特徴を活かし、医師の指示のもと、ケアマネジャー、
介護スタッフ、ご家族と連携を取り、専門病院のリハビリテーションを
ご自宅で提供します。

対象となる方
脳卒中になられた方、骨折された方、手術や治療で体力の衰えがある方

RECOVERY REHABILITATION

回復期リハビリテーション病棟

その人らしい暮らしを取り戻すために

回復期リハビリ病棟では、けがや病気などが原因で今までのように体を動かせなくなった方が、自分らしい生活を送ることができるように、さまざまな職種が力を合わせ、サポートしています。

リハビリテーション実績 ※2024年4月～2025年3月

平均リハビリ時間	平均入院期間
2時間39分	82日
重症から改善された方の割合	**自宅へ帰られた方の割合**
66%	88.7%（全国平均78.4%）

	疾　　患	病棟に入院できる期間
1	脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症又は手術後、義肢装着訓練を要する状態	150日
	高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頚髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷	180日
2	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	90日
3	外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後の状態	90日
4	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態	60日
5	股関節又は膝関節の置換術後の状態	90日
6	急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態	90日

チーム医療

医師・看護師・社会福祉士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護助手・薬剤師・管理栄養士などといった職種が互いの専門性を尊重しチームとして患者さまの治療、介護にあたります。患者さま一人ひとりに合わせた計画を立て、脳障害や運動麻痺をはじめとする後遺症の回復や日常動作の改善・向上を目指します。入院中のリハビリテーションだけではなく、退院後の生活を見据え、各種手続きや情報提供など、退院し社会や家庭に復帰できるようサポートを行っています。

From Hospitalization to Discharge

入院から退院まで

入院相談から退院までの流れについてご紹介します。

回復期リハビリテーション病棟

入院相談/入院前面談

入院されている病院の転院調整窓口（地域連携室・医療相談員・看護師など）にご相談ください。また、入院前にご本人もしくはご家族と面談を行います。電話面談や出張面談も可能です。

入院

転院の搬送は当院で手配します。入院当日は医師よりご説明しますので、ご家族が当院にお越しください。

リハビリテーション

入院当日よりリハビリテーションを開始します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれ専門的なリハビリを提供します。

※毎日2時間以上、土日祝も実施

カンファレンス / インフォームドコンセント

多くの職種でチームを組み、患者さまの状態の確認や退院後の生活について、毎月、話し合います。また、患者さまの状態や治療方針をご説明し、患者さまやご家族の希望を聞きながら、治療を進めます。

退院準備 / 退院

退院先については、医療相談員が中心となって支援します。ご自宅へ戻る場合は、必要に応じてご自宅を訪問し、安全性を確認します。病院や施設へ転院する場合は、状態に応じた医療機関や介護施設・福祉施設をご紹介します。

● ご家族に来院していただく必要があるのは、入院時、治療方針が変更される場合、退院調整を行うとき（必要時）です。

Flow of the day during Hospitalization

入院中の1日の流れ

入院中の1日の過ごし方の例。リハビリは毎日2時間以上実施します。

- ～8:00 起床・洗顔・更衣など
  - **更衣**　毎日リハビリ前に普段着に、終了後には寝間着へ着替え、1日の生活リズムをつけます。
- 8:00 朝食
- 8:40 リハビリ　歩く練習と足を鍛える運動
- 10:00 検査
- 8:40～18:00 入浴・介助浴
  - **入浴**　1週間に2回の入浴ができます。安全に1人で入浴できるようになれば、個別入浴も可能です。
- 12:00 昼食　状態に応じて食事訓練
- 12:45 リハビリ　更衣・トイレ練習
- 14:55 リハビリ　発語訓練
- 16:30 リハビリ　看護師と病棟にて
- 17:00 更衣
- 18:00 夕食
  - **食事**　自分で食べることが困難な方や見守りが必要な方は食堂で食事をとっていただきます。
- 21:30 就寝

※いずれも患者さまの状態により変更する場合があります

About Hospitalization

入院について

患者さまのニーズに応じて、さまざまなタイプの病室をご用意しています。

病室のご案内

※全室別途設備使用料（550円）が必要です。
※各フロアに洗濯機を設置しています（無料）。ご使用の際はスタッフにお声かけください。

4床室

設 備　鍵付きシステム収納家具 / 冷蔵庫 / テレビ

個 室

設 備　鍵付きシステム収納家具 / 冷蔵庫 / テレビ / トイレ　料 金　11,000円（トイレなし） / 13,200円（トイレあり）

2床室

設 備　鍵付きシステム収納家具 / 冷蔵庫 / テレビ　料 金　4,400円

リハビリを支える食事

栄養面から患者さまのリハビリをサポートいたします。食事が楽しみのひとつとなるよう、四季を感じる行楽食や、日本各地の郷土料理も取り入れています。

よくあるご質問

Q 入院時に用意するものは?
歯磨きセット、衣類（肌着）、入浴準備バッグ、洗面具、コップ（プラスチック製）、ティッシュ、電動式髭剃りなどをご用意ください。お箸、スプーンは食事の際にお出しします。貴重品はなるべくお持ちにならないようお願いいたします。

Q 入院時の寝具について
病院備え付けのものをご使用ください。シーツ類は、1週間に1度交換します（特に汚れがひどい場合など、特別な場合はその都度交換します）。

Q 付き添いについて
入院中は付き添いの必要はありません。ただし、ご家族が付き添いを希望される場合は、医師・看護師にご相談ください。

Q 面会時間・消灯時間
ご家族の面会時間は午前9時から午後8時までとなります。
午後9時半以降は消灯させていただきます。

Q 面会について
患者さまの症状によっては面会をお断りすることがあります。面会時間外の来院、多人数での面会、お子様特に乳幼児の同伴、ペットの持ち込みはご遠慮ください。

Q Wi-Fiの利用について
ご利用を希望される方は、2階総合受付にてお申込みください。

Q お支払いについて
入院費用およびリース費用は、毎月末締めの翌月10日前後に請求書を発行します。
2階受付の自動精算機もしくは振込み（手数料は患者さま負担）でお支払いください。クレジットカードでもお支払い可能です。

お問い合わせ

入院についてご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

ならまちリハビリテーション病院 地域連携課

TEL 0742-20-2500